

未来



全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中野支部
機関紙「みらい」
NO. 4436
24年4月5日(金)
Tel・Fax 095-828-1953
文責 支部書記長

世界を滅亡させる兵器を 作り出したユダヤ人の 物理学者3人の言葉は

おはようございます。

アメリカ大リーグ(MLB)が開幕した。ドジャースに移った大谷や山本らの日本人選手たちの活躍に一喜一憂。MLBは世界の国から選手が集まり、公的には国や民族肌の色による差別は許されないとしている。

いま世界には百九十七の国と七十九億人が生き、国連の加盟は百九十三カ国。民族の数は無数だ。

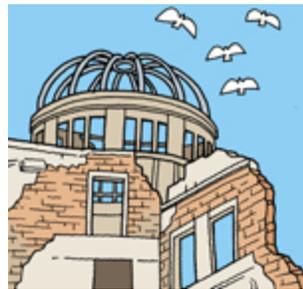
国の基本は自立と民族自決権だが、歴史的な経過から、分離・独立の内紛・内戦は拡大の一途だ。その代表がパレスチナの国家独立闘争とイスラエルの入植(侵略)とガザ地区の民族浄化、絶滅的な大虐殺やロシアのウクライナ侵略などで核大国の論理が大手を振っている。国連もこれを止める手段を持たない。

二十一世紀こそは世界に平和をと期待されたが、予想に反し、第二次世界大戦(核戦争)前夜のような危機が続く。



ではなぜイスラエルはパレスチナ攻撃をするのか。それはイスラエルがパレスチナ国家の独立を認めないからだし、パレスチナもイスラエル国を認めないからだ。

紀元前一世紀ころ、ローマ帝国によって、この地にあったユダヤ人の国が滅ぼされ、ユダヤ人は世界に散る。二〇〇〇年後の一九四七年、国連がパレスチナ分割決議を行い、イスラエルの建国を決議する。翌年、イスラエルは独立を宣言し、周辺国へ攻め込む。



この強気の背景には、

建国の大義を国連決議で語る国が、自分が侵略者の決議をされるや、国連を無視する。この倫理と戦争に正義はない。

アメリカの存在があったからだ。アメリカの政治を牛耳るユダヤ人の存在は、公然たる秘密である。しかし最近、バイデン大統領は「ガザ攻撃をやめろ」と言い出し、世論調査でも六割近い国民がイスラエルを批判している。アメリカが変わり、世界もガザ停戦を求めるべきだ。

この第一次中東戦争で、イスラエルは決議で認められた五〇%の土地以上の七十七%の土地の支配権を手にし、この地にいたパレスチナ人の七十万人が難民となる。これ以来、イスラエルの入植という名の土地収奪と侵略は続き、そのたびに国連は入植反対の決議を行うが、イスラエルは従わない。

百年前の第一次大戦頃のドイツにフリッツ・ハーパーというユダヤ人の物理学者がいた。彼はアンモニアの製造法を發明し、化学肥料により世界の食糧生産を飛躍的に増加させる一方、毒ガスの兵器製造も行い、ドイツ軍が地上戦で連合国軍の五千人を殺した。

このことから彼は「科学兵器の父」と呼ばれたが、ヒトラーは彼がユダヤ人であることから彼の公職を追放する。これが多くの物理学者がアメリカへの亡命が広がるきっかけとなった人物だ。結局この毒ガスこそ、のちのホロコーストにナチスのユダヤ人虐殺のために使用されたとは皮肉であった。

この毒ガス兵器製造で同じく物理学者のアインシュタインはハーパーに「君は科学的才能を大量虐殺兵器のために浪費している」と批判する。これに対しハーパーは、「毒ガスで戦争を早く止めさせることができれば、結果的により多くの無数の人命を救うことができる」と反論した。

のち、大量破壊兵器の原子爆弾を作り、「原爆の父」と呼ばれるユダヤ人で物理学者のノイマンとアインシュタインとの対話でも、同様の会話が行われ、ノイマンは「原爆は戦争を早く止める兵器だ」と反論している。

確かに、七十九億の人類を食わせる食糧増産に、大きく寄与する化学肥料の素アンモニアを發明したハーパーも毒ガス兵器を作り、また原爆を作ったノイマンも、戦争を早く止める兵器と、自分の科学的成果を自賛するが、いま原爆と毒ガスは、世界を破滅させる兵器となっている。

もしイスラエルやエルヤ、ロシアが、国が破滅的攻撃を受けるならば、核兵器で反撃すると公言している時代に私たちは生きている。



戦争も原爆も毒ガスも、民族と国家と国民の存在と安全が起点だ。科学製品は戦争の兵器として發明された。一度發明された兵器は必ず使われる。AI兵器の危険性などの未来も含め、いまそのぎりぎりの時間に世界はある。反戦・平和闘争は自らの命を守るたかいかいだ。

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員希望者全員が正社員化を。

ゆめを、均等待遇、なごみ差別。

ユニオンは労基法裁判に勝利するぞ！

期間雇用パート労働者の皆さん！ 困りごとは職場の郵政ユニオンへご相談を。

1集-海江田, 2集-向井, 3集-山田, 支部・分会の役員へ。

郵政ユニオン長崎の
ホームページはこちら

